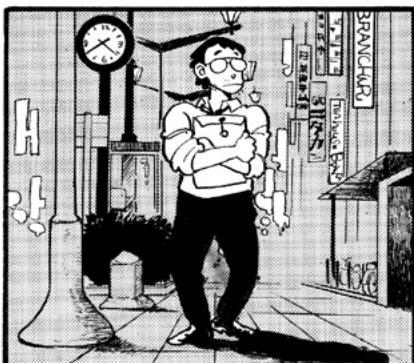


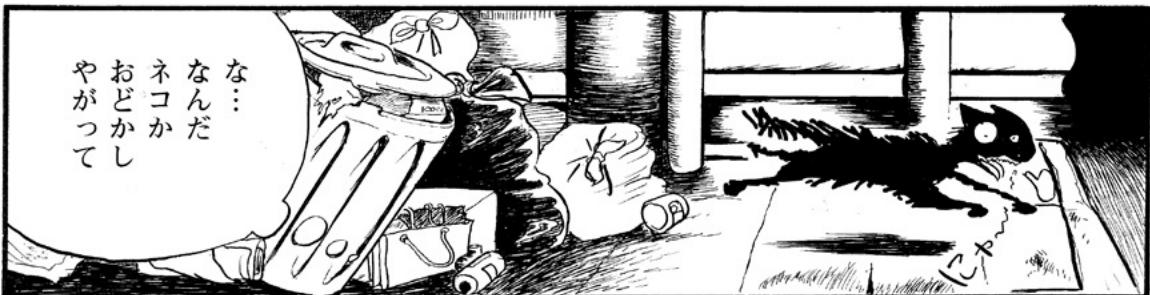
## ★ 操作方法 ★

マンガのページの上でクリックすると次のページを表示します。右クリックすると前のページに戻ります。

※ Macintosh で、マウスに右クリックの設定をしていない方は、キーボードの「control」キーを押しながらマウスをクリックすると前のページに戻ります。

※ iPad では、上下スクロールでご覧いただけます。





何しろ

高谷連三郎先生は  
三年に一作書くか  
どうかというぐら  
い寡作で有名な作家だ

各社は  
必死になつて  
先生の作品を  
手に入れようと  
している

かくいう  
わが「特選小説」も  
五年間待つた  
のだからな

先生の家で  
一週間寝ずに  
待つてたから  
眠たくてしか  
たがない

いやあ  
終電に遅れちゃつて  
飲み屋で飲んでたら  
二人に会つたんだ  
ところで多聞君は  
これから帰る  
のかい？

道の真ん中で  
大きなアクビ  
なんかして  
朝帰りとは  
怪しいぞ

誰かと  
思つたら  
文芳社の  
多聞君じゃ  
ないの

もちろん  
まつすぐ  
家に帰り  
ますよ

どうして  
こんなところに  
いるんです  
か？

ま…まずい  
丸山書店の原と  
明文社の小早川  
それに梅書房の  
西町――



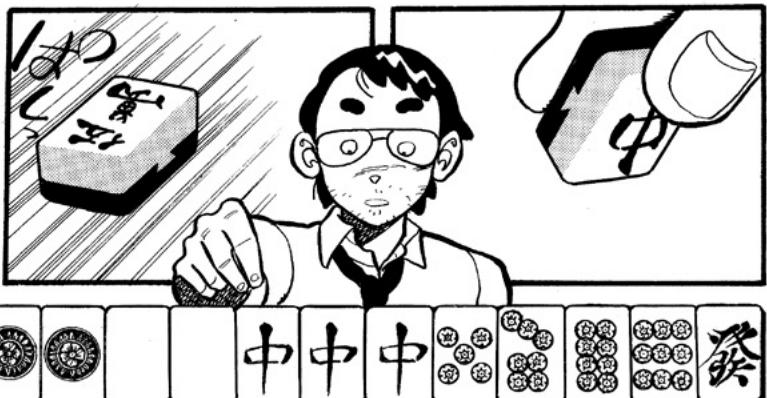
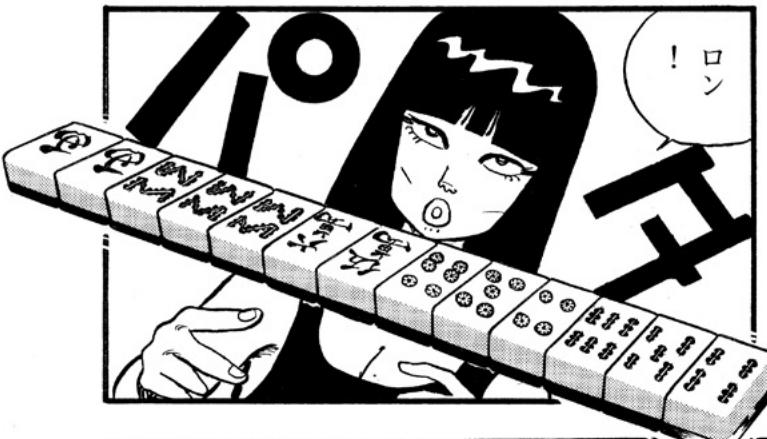
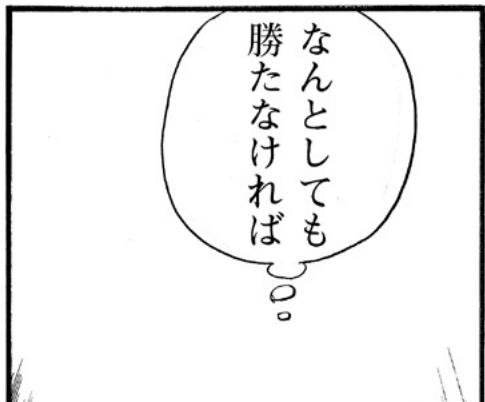


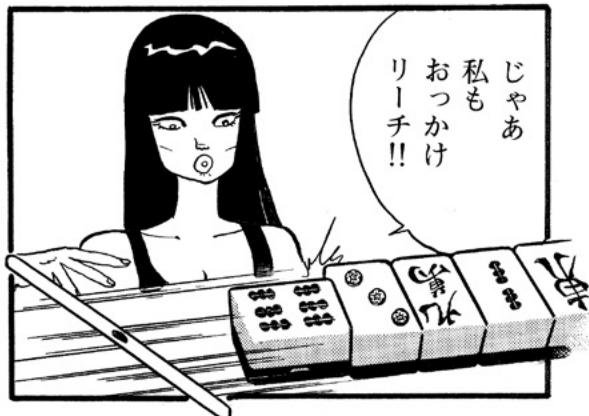


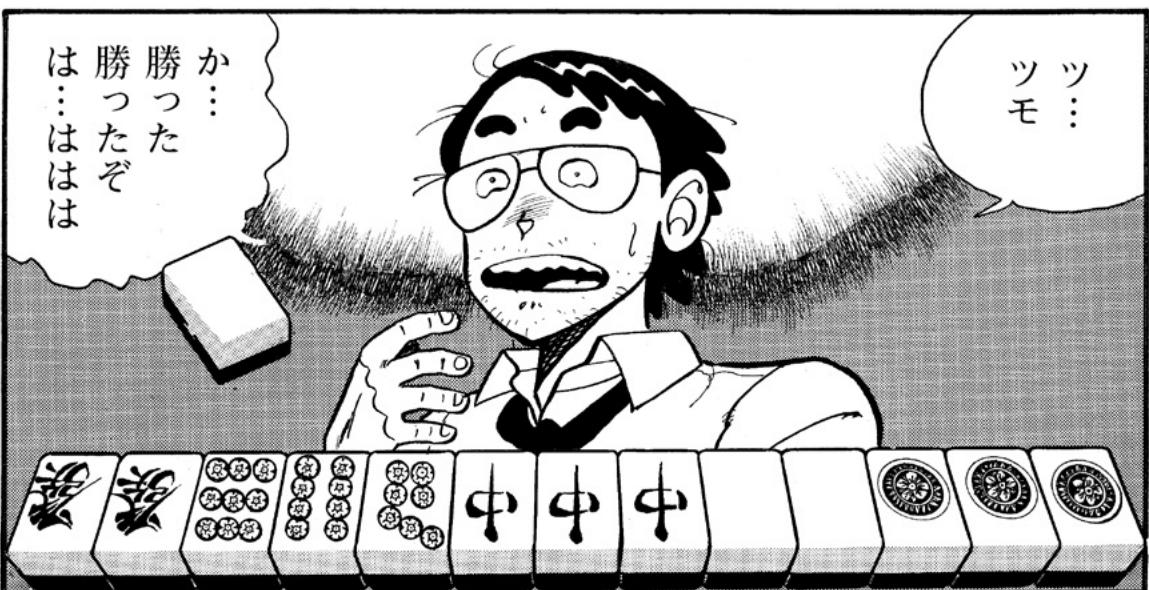














疑惑の対局・終